

兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけの所で忠告しなさい。
言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。

(マタイによる福音書 18章15節)

2024年度の学園の主題聖句は、「**私は良い羊飼い。私は羊を知っており、羊も私を知っている**」(ヨハネによる福音書10章14節)。これは、主イエスが御自身を良い羊飼い、私たちをその羊に譬えての主イエスのお言葉です。主イエスは既に私たち一人ひとりを知っておられます。でも私たちはと言えば主イエスを知っているとは限らない。主イエスを知るようにと初めに導かれたのが弟子たちであり、そして今、私たちもです。清教学園の生徒、園児、教職員、保護者の皆さんも、清教学園と関わり、主イエスを知る機会を戴き主イエスを知るようにと招かれているのでしょ

う。良い羊飼いとしての主イエスはどういうお方なのか、これを知るのに今回はまず「迷い出た羊の譬え」の聖句を味わいます。この譬えの主眼は「**これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい**」(マタイによる福音書18章10節)。そして「**これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなた方の天の父の御心ではない**」(同14節)。父なる神の御心、そして主イエスの御心をこの譬えが明らかにしています。

譬えの内容は、100匹の内1匹が迷い出ていなくなってしまった。羊飼いは、まだ99匹いるから1匹くらいいなくなってもいいや、とは思わなかった。むしろ、迷い出たその1匹を捜しに行きます。大丈夫かな、狼に食べられたら大変だ、と心配して捜しに行きます。そして、やっとのことで見つけ出します。その時には、見つけ出すのは大変だったぞ、迷惑かけてけしからん、と叱りつけたという記事はなく、ただただ「99匹よりもその1匹のことを喜ぶ」とあるのみです。このように、迷い出た1匹の羊を見つけ出していく羊飼いの姿、小さい者でも軽んじることのない羊飼いの姿を描きます。そしてこの姿を父なる神、そして御自身と重ね合わせています。

私たちは99匹の羊ですか。それとも迷い出た1匹の羊ですか。半年前に入学の生徒たち、友人はできましたか。独りぼっちの人はいませんか。もちろん、日常の挨拶や会話は交わすでしょう。でも内心、心を開けないままということはあるかも……。出来ることなら、清教学園の友だちから一生涯続く親友、損得勘定なしに心を開く事の出来る親友との出会いが始まるといいですね。

さて、この譬え話に続いて主イエスは「兄弟を得る」話をします。喧嘩をして仲が悪くなる。その時、まず一対一で忠告し、お互いが納得して仲直りできたら、兄弟を得たことになる訳です。しかし、これが難しい。お互いに聞き入れないからです。友人関係だけではありません。親子、兄弟、先生と生徒、仕事仲間、大人になっても、難しい。さらに個人の間関係だけでなく、グループ同士の抗争になったり、国同士の戦争にもなったりします。無視したり敵対したりするだけで、お互い兄弟を得る事が出来ないままです。

ペトロが主イエスに問いかけました。「**兄弟が私に対して罪を犯したら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか**」(同21節)。主イエスの答えは「**七を七十倍までも赦しなさい**」。何度でもということですが、七回というのはペトロだって精一杯答えたのです。だって、同じ人が同じ失敗や迷惑をかけてきたら、何度赦せますか。七回だってそう出来ません。いい加減にしてくれという気持ちになります。相手が反省し、こちらも赦す思いを持てるようになる。これはもう、その実現を祈るしかないことになるのかもしれない。

小さな者を、時には敵対関係にある場合でも相手を一人も軽んじない、なかなか出来ないことです。それでも敢えて主イエスがこの事をお語りになるのは、相手を赦せないこと(あるいは自分が自分を赦せないことも含めて)、人間の赦しがたい事柄を、十字架で負って赦そう、と主イエスがこの十字架へのご決意をしておられるからです。ですから一人も軽んじないようにするというのは、単なる礼儀としての道徳や生き方としての倫理の勧めを越えています。自分の思いや志だけで出来ることではないからです。主イエスが十字架で負って下さってこそ出来る訳です。「兄弟を得る」、これは主イエスが赦して下さる相手の姿と自分の姿を信じてこそ開かれる可能性です。

「私は良い羊飼い」。主イエスの働きかけを受けとめてこそ、お互いに軽んじることなく、相手のことを思って忠告することも、相手を赦すことも、可能性が開けてきます。またお互いに「兄弟を得た」経験に繋がるのでしょうか。この経験をし合った者同士が、相手を一生涯の親友として見出すことになるに違いありません。

そして、私たちも個々人も社会関係も世界も、平和を実現していくために、主イエスを知っている恵みに与る者となりますように祈り願います。